

篠田 一夫

著者は尿閉、歩行障碍、下肢の知覺異常等を主訴とせる48歳の家婦に於て直腸癌の脊髓硬膜外轉移によると思はるる尿閉の1例を経験せり。初め尿閉の原因不明なりしも主訴及び種々なる検査方法の結果脊髓硬膜外腫瘍の脊髓壓迫に歸因するを推測し得たり。治療法としては直腸癌に對しては患者の希望により手術的侵襲をさけ脊髓轉移竈に對し「レ」線照射を試み、排尿障碍に對しては専ら姑息的療法を行へり。(中川抄)

皮膚科紀要

31卷 4號

實驗的再現再歸熱に於て原株と再發株との補體結合反應による免疫學的研究
Ⅲ 原株及び再發株「ワクチン」注射による混合免疫と原株又は再發株接種

矢野 實

再歸熱「スピロヘータ」及再歸熱「スピロヘータワクチン」を海狗腹腔に注射して本實驗を行ひしに再歸熱原株と再發株とは免疫反應の一つなる補體結合反應を異にし、再發株「スピロヘータ」は再發を起せる爲それ自身に對する特異性抗體形成を行ふものと思惟さる。

經皮免疫に関する實驗研究

第四編 赤痢異型菌(F型及Y型)の經皮免疫による凝集素價の減退後に於て同抗原の再經皮免疫及皮下注射

松室 守義

赤痢異型菌「ワクチン」の塗布、又は皮下注射により發現せる血中抗體が減退乃至消失せる時に同抗原の再塗布をなすか、或は再塗布により出現せる血中抗體の減退又は消失せる時に同抗原の第三次塗布を施す時は血中に抗體(凝集素)の産生上昇を來す。此場合の抗體上昇度は該「ワクチン」の皮下注射量の場合に比して概して劣るも經皮的大腸菌「ワクチン」の應用の場合に勝る。

白鼠に發生せる可移植性腫瘍の一新株に就て(V)本腫瘍の皮下移植による再移植並に重複移

植並に第三回移植に就て

弓削 鐵夫

以上の三種の移植を行ひ其各々に於ける免疫學的影響に就き觀察したるも何れも陰性の結果を得たり。

採尿法による腎臓の細菌排泄に関する實驗的研究(Ⅲ) Nelaton 氏「カテーテル」留置家兔膀胱導尿法による實驗成績に及ぼす注入菌量の多少、家兔種屬の相違(自然免疫の強弱)及家兔の藥物性腎臓毒或は「ワクチン」による前處置等の影響に就て

西村 幹夫

以上三種の實驗により何れも尿中に於ける綠膿菌の初發時間は短縮せり。

31卷 5號

肺炎双球菌の他働的免疫に関する實驗的研究(Ⅱ) 家兔に於て肺炎双球菌免疫血清注射部位が抗體研究に及ぼす影響に就て

越智 昇一

以上の目的を以て肺炎双球菌一型菌の家兔免疫血清を皮下、靜脈内、腹腔内、及び氣道内(介鼻腔)に別々に接種する場合には免疫凝集素の血中に出現するを認めその出現期は靜脈内注射によるもの最早く、且出現量最高價並に凝集素の血中存續期間は皮下注射によるもの最も高く且最長し。

リーケンベルグ氏反應に関する知見
種遺第4編 溫度と血小板帶荷現象

高崎 澄

溫度と血小板帶荷現象の間には或程度の關係存し血小板帶荷現象は溫度の昇降と時間の経過により變化を來すべきものと信ず。

Sarcosporidier の培養に就て

荒瀬 恒雄

豚及牛系肉肉胞子蟲に就て其胞子の培養を試みたり。使用せる培養基は現下赤痢「アメーバ」等の原蟲培養に専ら使用さるる Boeck Drobohlav 培養基及田邊千葉培養基にして好氣並に嫌氣培養を試みたるも好結果を得ざりきと。

經皮免疫に関する實驗的研究(其一)

第五編 白痢菌「チフス」菌及「パラチフス」菌を以てせる經皮免疫

松室 守義

白痢菌の經皮免疫によりて家兎血中に其凝集素は産出せられ、且獲たる免疫血清中には「チフス」菌及「パラチフス」菌に對する非特異性免疫反應を認む。

31卷 6號

白鼠脾臓を以て處置したる家兎血漿の當該肉腫の發育に及ぼす影響に就て

野津 芳孝

白鼠脾臓を反覆注射せる家兎の血漿は、之を用いて體外培養せる本田系肉腫及び白鼠脾臓の發育に對し著明なる制限的作用を有するも、「マウス」癌及鶏胎心臓の發育に對し著明なる影響を及ぼさざるを知る。

男子尿道「レ」線像に就て(第一編)

斜傾位撮影法に依る正常男子尿道「レ」線像に就て

中尾 知足

泌尿器系統に於て何等器質的疾患を有せざる32例に於ける正常男子尿道「レ」線像に於て其型太さ及び形態に就いて研究せり。

32卷 1號

採尿法に依る腎臓の細菌排泄に關する實驗的研究(IV) Nelaton 氏「カテーテル」留置家兎膀胱導尿法に依る實驗に及ぼす試獸自働免疫賦與の法の影響に就て

西村 幹夫

自働免疫家兎の血流内に注入せる綠膿菌の尿中出现状態を前回と同様の處置を以てなし正常白色家兎群に於ける成績と比較せしに綠膿菌の尿中初發時間は非免疫家兎より遅延するものゝ如く免疫元の注射部位及び注射量の相違は影響大ならざるものゝ如し。

白鼠に發生せる可移植性腫瘍の一新株に就て(VI) 本腫瘍の腹腔内及び靜脈内移植並に異種移植に就て

弓削 鐵夫

本腫瘍を白鼠の腹腔内に移植するに諸臓器中

特に大網膜に於て最旺盛なる發育をとげ又一旦皮下移植後一時定日を経て腹腔内移植をなせるも又同一結果を見たり。同一白鼠に於ける本腫瘍の移植成績は略一致し且靜脈内移植に際して肺及其隣接器官殊に淋巴腺に轉移様腫瘍形成を認む。且本腫瘍は海濱及「マウス」への皮下移植は陰性にして野性鼠及雜種鼠に於ては兩者共腫瘍發育をみとめたり。

肺炎雙球菌の他働的免疫に關する實驗的研究(II) 免疫血清再注射に就て

越智 昇一

海濱及家兎に肺炎雙球菌一型菌の家兎免疫血清を腹腔内に注射し免疫凝集素の血中出现下降期に於て或はそれが血中より消失後に既往に於けると同血清量を再度腹腔内に注射する時には各動物の血中に免疫凝集素の出現を認め特に免疫凝集素の血中に存在せる内に注射する時には凝集素最高達成期は早く出現し且血中存続時間永し。

32卷 2號

採尿法による腎臓の細菌排泄に關する實驗的研究(V) Nelaton 氏「カテーテル」留置家兎膀胱導尿法による實驗に於ける血流内注入細菌の尿中出现菌數との時間的消長に就て

西村 幹夫

家兎血流内に注入せる綠膿菌の血流中の菌數の消長は注入後時間の経過と共に減少し且尿中出现菌數の消長と反比例するものゝ如く尿中綠膿菌の出現は膀胱内留置「カテーテル」によるものならず、又血中より簡單なる濾過作用を以て腎を通過し尿中出现するものとも思はれず。

肺炎雙球菌の他働的免疫に關する實驗的研究(VI) 自働的免疫による抗體減速期及抗體消失後に於て免疫血清注射による他働的免疫に就て

越智 昇一

之等の實驗を行ひしに前處置に於て凝集素の未だ血中に殘存せる時になせるものの方が血中凝集素の出現價は優秀にして、且その血中存続期間永し。

實驗的家兎「トリパノゾミアージス」に